



葛飾北斎「北斎漫画 十二編」
天保5年(1834)序
資料番号:06200472

特別展

大妖怪展

土偶から妖怪ウォッチまで

企画展

発掘された日本列島2016
山岡鉄舟と江戸無血開城
伊藤晴雨 幽霊画展



みどころ 手足の生えたような器物や妙な姿の生き物がぞろぞろ歩く。同類の中で、最も有名な逸品。
重要文化財 伝土佐光信「百鬼夜行絵巻」(部分)
室町時代(16世紀) 京都・真珠庵蔵 【展示期間:8月2日~28日】



みどころ 鬼を食らう神虫。大胆な描写とちょっとユーモラスな表情が絶妙。
国宝「辟邪絵 神虫」(部分)
平安~鎌倉時代(12世紀) 奈良国立博物館蔵 撮影:佐々木香輔
【展示期間:7月5日~31日】

の伝土佐光信「百鬼夜行絵巻」など、どこか笑いを誘う不思議なものたちの姿が楽しめます。また「第3章 妖怪の源流地獄・もののけ」では、さらに時代を遡って、地獄絵などに登場する異形のものたちに妖怪表現のルーツを探ります。強烈な表現の中に少しおかし味が混じる国宝「辟邪絵 神虫」などは、圧巻の存在と言えます。う。地獄や異界にうごめく、鬼や得体の知れないものたちの姿は、妖怪画誕生に大きな影響

を与えたのです。さらに、異形のものでありながら親しみをも感じさせる表現、という観点に立てば、縄文時代の土偶の中にも、後の妖怪画に通じるものが見出せます。最後は「第4章 妖怪転生 現代の妖怪」です。現在広く知られている現代の妖怪、妖怪ウォッチで締めくくります。人々が、時を越えて異形のものたちに心を寄せ続けていることに、改めて気付いていただけでも幸いです。(学芸員 我妻直美)

特別展

大妖怪展

土偶から妖怪ウォッチまで



©L5/YWP-TX
「ジバニャン」
〔妖怪ウォッチより〕

みどころ 様々な妖怪の姿を図鑑のように描いた絵巻。紹介するのは、「ぬりひよん」



村田龍亭「百鬼夜行絵巻」(部分)
明和元年(1764) 大屋書房蔵
【展示期間:8月2日~28日】



高井鴻山「妖怪図」
江戸時代(19世紀) 個人蔵 撮影:大屋孝雄
【展示期間:7月5日~31日】

妖怪、という言葉が耳にして、すぐに何らかの妖怪の姿が浮かぶ日本人は、結構多いのではないのでしょうか。人々に恐れられ、その一方で大いに愛されてきた妖怪。本展は、長く日本人に親しまれてきた妖怪の姿を、国宝や重要文化財を含む美術品によって紹介するものです。

まず「第1章 江戸の妖怪、大行進!」では、妖怪の姿が最も多彩な広がりを見せた、江戸時代の作品をご覧いただきます。最初に、これぞ江戸の妖怪、と言えるような高井鴻山筆「妖怪図」をはじめ、伊藤若冲や葛飾北斎らによる、個性豊かな作品をご覧いただきます。次に様々な妖怪たちが活躍する物語を描いた絵巻と、妖怪の姿を図鑑のように紹介する作品群を取り上げます。これらに描かれた妖怪たちには、不気味な姿のものもあれば、思わず「可愛い!」と口にしてしまいそうな姿のものもあります。江戸時代の人々が、いかに妖怪に強い関心を持っていたのかがよくわかります。



歌川国芳「相馬の古内裏」 弘化(1844~48)頃 個人蔵

そして妖怪の姿を、より広く江戸の世に浸透させていったのが、錦絵と版本です。喜多川歌麿、歌川国芳、月岡芳年ら、人気の浮世絵師が描いた妖怪の姿もご堪能いただけます。また今回は妖怪と幽霊は同じ化物の仲間、という考えのもと、幽霊画も集めました。暑い夏の日、身の毛もよだつ幽霊画に、少しぞくぞくしてみませんか。さて、次からは時代を遡っていきます。「第2章 中世にうごめく妖怪」では、妖怪が造形化され始めた室町時代頃の作品を展示します。重要文化財

次回特別展予告

「よみがえれ! シーボルトの日本博物館」

9月13日(火)~11月6日(日)

「アムステルダムにおけるシーボルト日本コレクションの展示(第1部 日本の信仰)」

万国博覧会より早く、ジャポニスムにも先駆け、日本展示はすでに始まった—江戸時代、2度にわたり来日のうえ膨大な日本コレクションを形成したシーボルトは、それを駆使した日本博物館を構想し、その実現に生涯をかけました。近代博物館、あるいは民族学が生まれつつあった19世紀なかばのヨーロッパにおいて、いったい彼はなぜ、そしてどのように日本を見せようとしたのでしょうか。「日出る国」に魅せられた男の「日本」を150年の時を経たいまここで再構成します。

information

特別展「大妖怪展 土偶から妖怪ウォッチまで」

会期 | 2016年(平成28)7月5日(火)~8月28日(日)
休館日 | 月曜日休館(ただし、7月18日、8月8日・15日は開館、7月19日は休館)
開館時間 | 9:30~17:30(7月9日・16日・23日の土曜は19:30まで、7月29日の金曜から、金曜と土曜は21:00まで)
※入館は閉館の30分前まで。※会期中、展示替えがあります。

観覧料(税込)	特別展専用券	特別展・常設展共通券
一般	1,350円(1,080円)	1,560円(1,240円)
大学生・専門学校生	1,080円(860円)	1,240円(990円)
中学生(都外)・高校生・65歳以上	680円(540円)	780円(620円)
小学生・中学生(都内)	680円(540円)	なし

※()内は20名以上の団体料金。 ※小学生と都内在住・在学の中学生は、常設展観覧料が無料のため、共通券はありません。 ※次の場合は観覧料が無料です。未就学児童。身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方と、その付き添いの方(2名まで)。
主催 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、読売新聞社
協賛 | 野崎印刷紙業
後援 | TBSラジオ
協力 | 妖怪ウォッチ製作委員会
チケット販売 | 江戸東京博物館、チケットぴあ、ローソンチケットなど主要プレイガイド(手数料がかかる場合があります)
※特別展・常設展共通券の販売は、江戸東京博物館のみです。

えどはくカルチャー特別展関連講座

「妖怪画の系譜」 安村敏信(萬美術屋・元板橋区立美術館長)
7月15日(金) 14:00~15:30
※往復はがきによる事前申込制となります。応募方法や受講料などの詳細は、ホームページ、または館内配布のチラシをご覧ください。



山岡鉄舟生誕180年記念

山岡鉄舟と江戸無血開城

8月11日(木・祝)～9月25日(日)

徳川幕府が置かれた江戸は、18世紀初頭に推定で100万の人口を抱えた世界有数の巨大都市でした。明治新政府はその都市基盤を引き継ぎ、江戸を新たな都・東京としました。このような江戸から東京への円滑な移行は、「江戸無血開城」といわれるように、江戸が戦禍を免れたことにより可能になりました。

会談し、徳川家の処遇や戦闘回避の条件について協議を行いました。江戸無血開城といえば、勝海舟と西郷隆盛の江戸での談判が有名ですが、鉄舟もまた、その実現に深く関わっていたのです。
本展では、山岡鉄舟の生誕180年を記念して、その生涯に注目しながら、幕末・維新史のハイライトである江戸無血開城を振り返ります。(学芸員 小酒井大悟)



鉄舟胴乱
全生庵蔵

この江戸無血開城に大きな役割を果たしたのが、山岡鉄舟で敗れて江戸に戻った前將軍・徳川慶喜の護衛にあたりついていた鉄舟は、江戸に迫り来る新政府軍との交渉役を慶喜から依頼されます。そして、新政府軍参謀の西郷隆盛と駿府で



開基鉄舟居士肖像
全生庵蔵

伊藤晴雨 幽霊画展

8月11日(木・祝)～9月25日(日)

伊藤晴雨は1882年(明治15)浅草に生まれ、向島に育ちました。本所の象牙彫刻師のもとで奉公したのち、芝居の看板絵描きとなり、25歳で新聞社に入社、講談や小説の挿絵で職業画家として認められました。30代半ばからの過激な描写の女性像は彼の名を世に広め、1961年(昭和36)に78歳で没するまで幅広い分野の作品を残しました。

今回ご紹介する幽霊画は、落語家の5代目柳家小さんによって、東京・谷中の全生庵に寄贈された全19点の画幅です。幽霊・妖怪が鮮やかな筆さばきで描かれたもので、舞台や演劇とも関わりの深い晴雨ならではの作品です。本展では、この幽霊画幅とともに、緻密な時代考証研究による江戸風俗図などを取り上げ、その観察眼と筆力に迫ります。

(学芸員 小林愛恵)



維新前四季往来之図屏風
1957年(昭和32) 資料番号:06000412



皿屋敷のお菊
大正～昭和頃
全生庵蔵

新発見考古速報

発掘された

日本列島2016

6月4日(土)～
7月24日(日)

日本列島では毎年約8000件の発掘調査が実施されています。今回は、近年発掘された旧石器時代から近代までの22遺跡を速報展示します。

また本展では、東日本大震災の復興事業に伴う発掘調査から明らかになった東北の豊かな歴史をご紹介します。復興の歩みとともに災害の記憶を風化させないことも大切です。災害大国日本において、先人ほどのように災害と向き合ってきたのか、「復興の歴史を掘る」と題した展示を行います。



新潟県糸魚川市
六反田南遺跡出土の縄文土器
縄文時代中期(約4500年前)
公益財団法人
新潟県埋蔵文化財調査事業団蔵

今後の企画展

市民からの
おくりもの
2016(仮)
10月15日(土)～
12月4日(日)

徳川宗家展(仮)
平成29年
1月2日(月)～
2月19日(日)

戦時下東京の
こどもたち(仮)
平成29年
3月18日(土)～
5月7日(日)

※タイトル・会期は変更になることもあります。

TOPICS ミュージアムショップに 新商品登場!!

夏の装いに、縞模様も涼しげな当館のオリジナルストールはいかがでしょうか。さわやかな青色、汗ばむ季節にガーゼの肌触りも心地よい一品です。縞には緑がかかった青色「新橋色」を取り入れました。大正時代に新橋の芸者が好み、ハイカラな色として流行したこと、地名がそのまま色の名前になるとい、珍しい由来があります。東京の歴史をさりげなく取り入れた、江戸博ならではのオリジナルグッズ! ミュージアムショップ



2,268円(税込)
江戸東京博物館
ミュージアムショップで
販売中!

限定のお取り
扱いです。この
機会にぜひお
求めください。

2

2016年3月5日、江戸東京博物館シンポジウム「隅田川流域を考えるー歴史と文化ー」を開催しました。このシンポジウムは都市歴史研究室が掲げる中期研究計画「隅田川流域の歴史と文化」に基づいて企画したもので、当日は、4人の報告者が、それぞれの専門分野から隅田川の歴史と文化の特質について発表した後、パネルディスカッションで活発な議論を繰り広げました。会場となった大ホールは、報告を熱心に聞き入る320人の聴衆でうまわり、4時間半に及ぶシンポジウムは盛会のうちに幕を閉じました(当日の報告タイトルは下記参照)。

今回のシンポジウムの特徴は、江戸から東京への変化を、連続的、かつ学際的に論じようとする従来のスタンスに加え、国際比較という新しい軸を加えた点にあります。江戸時代から現代までの隅田川流域の歴史の変遷の特質を、テムズ川、セーヌ川との比較によって一層明確に認識することを意図したのです。一例をあげれば、江戸の周縁部を流れる隅田川が、古代以来の歴史

と由緒を持つ精神性、物語性を帯びた「聖なる空間」として認識されていたことを論じた竹内報告に対して、ロンドン・パリでは聖なる性格を体現した教会や王の居城がテムズ川、セーヌ川沿岸の都市中心部に集中し、その周縁に経済的で実地的な空間が取り巻く構造を持っていたとする陣内報告がありました。比較の観点を導入することによって中心部の江戸城と周縁部の隅田川に「聖なる空間」が二極化していたことが江戸の特質として浮き彫りになりました。

一般に近代化の過程は「聖なるもの」が否定されていく過程でもありました。明治維新以降「聖なる空間」としての精神性を徐々に失っていった隅田川は、近代化に都合のよい開発対象となり、工場や住宅が無計画に密集する地域へと変容しながら現在に至ります。「聖なる空間」であった江戸時代の隅田川を思い起こすことが、単なる回顧ではなく、隅田川の将来像を描く上で重要であるという論点を提起してシンポジウムは終了しました。

- 問題提起 「隅田川流域を考える」 沓沢博行(当館学芸員)
- 各論 1 「聖空間としての隅田川」 竹内誠(当館館長)
- 各論 2 「隅田川流域の料理茶屋における文化活動について」 小山周子(当館学芸員)
- 各論 3 「スポンサーから見る隅田川の花火ー江戸から現代までー」 福澤徹三(すみだ郷土文化資料館専門員)
- 各論 4 「セーヌ川、テムズ川との比較の視点からみた隅田川の特質」 陣内秀信(法政大学教授)



シンポジウム風景

Information

お知らせ

えどはくの夏休み



ギボちゃんと写真を撮ろう!

えどはく公式キャラクターのギボちゃんが常設展示室に登場します!

8月11日(木・祝)～8月14日(日)
場所:常設展示室6階 日本橋付近

常設展示室内の催しは、
常設展観覧料金でご覧いただけます。

今年の夏は「えどはく」で! 楽しく役に立つイベントがお待ちしています。7月29日(金)～9月10日(土)の金曜日と土曜日は21時までの夜間開館!(9月2日(金)・3日(土)は除く)夏の夜に博物館でゆったりとした時間をお過ごしください。



講談:神田松鯉氏

今年もよろしく! 夏の「ひまわり寄席」

7月9日(土)から8月28日(日)までの土曜日・日曜日・祝日と、8月6日(土)～14日(日)に開催!
場所は常設展示室5階の中村座前です。
土曜日の18時30分からは講談師による「怪談の夕べ」をお楽しみください。

「夏休み!こども歴史学習相談」開催!

江戸東京の歴史について調べてみよう。「江戸時代に外国から伝わった食べものは?」「1964年の東京オリンピックで日本はいくつメダルを取ったの?」など、疑問を解決するのに役立つ本をご紹介します。夏休みの自由研究に、ぜひ図書室をご活用ください。

7月16日(土)～9月4日(日) 場所:7階図書室(入室無料) 開室時間:9:30～17:30
観覧・複写請求受付時間:9:30～11:30、13:00～16:30

特別展・企画展はPI～4です。

詳細はホームページをご覧ください。

図書室から
LIVE REPORT

展覧会カタログでみる
異界・妖怪

この世ならぬ不可思議なものに惹かれるのは人の常。私たち日本人の祖先はこうした異界のものを一方で神として敬い、また一方で妖怪として恐れられました。江戸時代以降、妖怪はキャラクター化し娯楽の対象として描かれるようになり、鬼や土蜘蛛、天狗、化け猫、河童……と、その姿形は現代の妖怪漫画にも受け継がれています。

昨今つくづく妖怪ブームにあわせるように日本各地の博物館・美術館で異界・妖怪を題材とした展覧会が開かれています。「大妖怪展」開催期間中、7階図書室関連図書コーナーでは各地の妖怪展カタログもご覧いただけます。どこかユーモラスな表情を浮かべる妖怪たちとともに、みなさまのご来室をお待ちしています。





7/2~3
笹の葉サラサラ
七夕のつどい



8/6~7
夜間特別開園
下町夕涼み



江戸東京博物館分館
江戸東京たてもの園から
そよ風
グリーンゲートと
ミストシャワー

今年の夏も大分暑さが厳しい様子。
みなさまは夏の日は出不精になりがちですか？
いえいえ、負けてはいけません、そんな時こそ
たてもの園で夏の涼の醍醐味を見つけて
ください。当園ならではの涼しさを
ご用意してお待ちしております。
どこにあるか五感を
使ってみましょう!!



夏の建具や障子に衣替え
(八王子千人同心組頭の家ほか)



風鈴
白い夏暖簾(鍵屋)

催し物のご案内 夏期ふれあい体験教室

事前応募制教室

- 歌舞伎の化粧をしてみよう (子供向け)
日時/7月24日(日) 13:30~15:30
対象/小3~中学生 定員/20名 締め切り/7月9日(土)
- 江戸切子
日時/7月29日(金) ①13:30~14:45 ②15:00~16:15
7月30日(土) ①10:45~12:00 ②13:30~14:45
特別講師/川井更造(江戸切子士)
対象/小5以上 定員/各回11名 締め切り/7月15日(金)

- 夏休み藍の建て染め (小学生向け)
日時/7月30日(土) ①12:30~13:20 ②13:30~14:20
対象/小学生 定員/各回15名 締め切り/7月16日(土)
- 親子で作ろう「江戸ばたばた」
日時/7月31日(日) 13:30~15:30
対象/小3~小6の親子15組 締め切り/7月16日(土)

- 浮世絵摺り
日時/8月21日(日) 12:30~15:00 特別講師/松崎啓三郎(摺師)
対象/小5以上 定員/20名 締め切り/8月6日(土)
- 歴史散歩「パワースポットを巡り「八百屋お七」を訪ねる散歩道(駒込~春日)」
日時/9月24日(土) 13:00~16:00 ※荒天時は10月1日(土)に順延
対象/一般 定員/20名 締め切り/9月10日(土)
※講師/ふれあいボランティア ※いずれも参加料無料
※場所/歴史散歩以外……1階会議室 藍の建て染め……3階江戸東京ひろば 北側休憩所
お申し込み方法
往復はがきに住所・氏名(2名まで)・年齢・電話番号・希望講座名(江戸切子は希望日、時間/藍の建て染めは時間)を明記の上、下記へ(締切日消印有効)
〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1 江戸東京博物館 ボランティア事務局 ふれあい体験教室係

当日受付教室

- 和算パズル
日時/7月2日(土)、9月3日(土) 各日13:00~15:30(受付終了15:00)
対象/小4以上
- 反古紙で折る小物
日時/7月2日(土)、9月3日(土) 各日13:00~15:30(受付終了15:00)
対象/小学生以上
- ととききユカタ体験
日時/7月30日(土)、8月27日(土) 各日10:30~12:00(受付終了11:30)
対象/3歳以上 定員/各15名

- 歌舞伎の鳴り物をならしてみよう
日時/8月21日(日) ①12:00~12:30 ②14:00~14:30
9月17日(土) ①12:00~12:30 ②14:30~15:00
対象/幼児~一般 ※各回とも時間内にお越しください。
- 秋の藍の建て染め
日時/9月10日(土) 12:30~14:30
対象/小学生以上~一般 定員/50名
【場所/3階江戸東京ひろば 北側休憩所】
※いずれも参加料無料(常設展示室内で開催の教室は観覧券が必要)
※場所の表記がない場合、常設展示室5階ミュージアム・ラボで開催。 ※講師/ふれあいボランティア
※3階江戸東京ひろばで開催の教室は、荒天などによるひろば閉鎖時は中止となります。

- 万華鏡で遊ぼう
日時/9月24日(土) 10:30~12:00(受付終了11:30)
対象/小3以上 定員/15名
- 8枚羽根のかざぐるまを作るう
日時/9月25日(日) 13:30~15:00
対象/小1以上(小3までは大人と一緒に) 先着25名

ミュージアムトーク

<p>江戸城と町割り 7月1日</p> <p>企画展「発掘された日本列島2016」展みどころ 7月8日、15日、22日</p> <p>高度経済成長期の東京 7月29日、8月5日</p>	<p>企画展 「山岡鉄舟と江戸無血開城」展みどころ 8月12日、26日</p> <p>企画展 「伊藤晴雨 幽霊画展」みどころ 8月19日、9月2日</p>	<p>江戸城と町割り 9月9日、16日</p> <p>関東大震災 9月23日、30日</p>	<p>常設展示室のみどころを学芸員が解説します。 (7月8日、15日、22日は文化庁調査官)</p> <p>日時/毎週金曜日 16:00から 常設展示室5階の日本橋下まで お集りください。 所要時間は約30分です。</p>
--	---	--	---

「江戸博NEWS Vol.93」の平成27年度新収蔵品紹介記事の一部に誤りがありました。右記の通り訂正し、お詫び申し上げます。(誤)「龍土軒」→(正)「龍土軒」